

## 緊急時モニタリング検査結果

- ◆ 魚介類
- ◆ 環境(海水、海底土)

福島県水産試験場

根本芳春・島村信也

## 検査の流れ(魚介類)

県の調査船や漁業者が採取した魚介類を検査

毎週120検体程度(海産魚)



魚体の測定

切り身処理

検査

県水産試験場

県農業総合センター

## 検査を行った魚種数・検体数

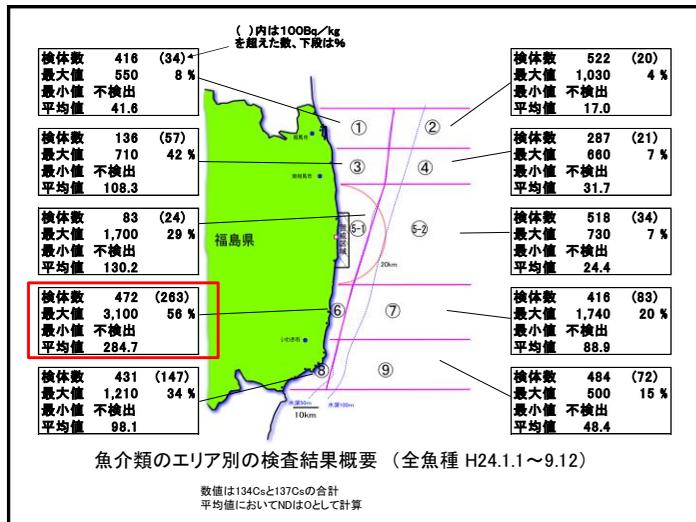
H2304-H240912

海域	魚種数		検査回数	
	合計	内100超	合計	内100超
いわき	133	63	2,450	895
相双	144	45	3,407	664
合計	170	72	5,857	1,559

## 海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

平成24年9月12日現在 40種類

アイナメ	クロダイ	ヌマガレイ	マダラ
アカガレイ	ケムシカジカ	ババガレイ	マツカワ
アカシタヒラメ	コモンカスベ	ヒガンフグ	ムシガレイ
イカナゴ(稚魚を除く)	サクラマス	ヒラメ	ムラソイ
イシガレイ	サブロウ	ホウボウ	メイトガレイ
ウスメバル	ショウサイフグ	ホシガレイ	ビノスガイ
ウミタナゴ	シロメバル	ホシザメ	キタムラサキウニ
エゾイソアイナメ(ドンコ)	スケトウダラ	マアナゴ	
キツネメバル	スズキ	マガレイ	
クロウシノシタ	ナガツカ	マコガレイ	
クロソイ	ニベ	マゴチ	



### 東京電力第一原子力発電所20km圏内の調査結果 (東京電力平成24年8月21日公表まで)

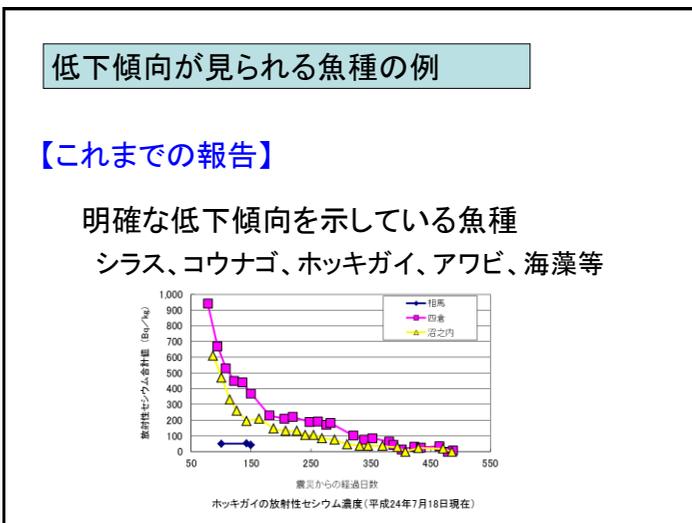
調査地点別結果

採捕地点	最大 Bq/kg	最小 Bq/kg	平均 Bq/kg	検査回数	100Bq/kg超	%
太田川沖合1km付近	25,800	0	797	40	17	42.5
小高区沖合3km付近	1,200	0	161	43	20	46.5
小高区沖合15km付近	240	0	42	42	17	40.5
請戸川沖合3km付近	910	0	220	31	6	19.4
請戸川沖合18km付近	140	0	23	48	3	6.3
1F敷地沖合3km付近	1,600	0	222	36	18	50.0
1F敷地沖合10km付近	880	0	103	49	14	28.6
熊川沖合4km付近	430	0	149	10	1	10.0
2F敷地沖合2km付近	1,700	0	357	28	18	64.3
2F敷地沖合10km付近	350	0	76	44	11	25.0
木戸川沖合2km付近	1,900	0	531	34	25	73.5
木戸川沖合5km付近	920	5	336	11	7	63.6
総計	25,800	0	236	416	157	37.7

### 東京電力第一原子力発電所20km圏内の調査結果 (東京電力平成24年8月21日公表まで)

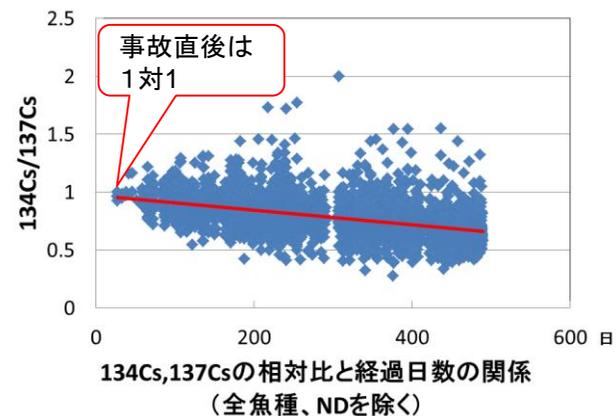
魚種別結果 (特に濃度が高いもの)

魚種名	最大 Bq/kg	最小 Bq/kg	平均 Bq/kg	検査回数	100Bq/kg超
アイナメ	25,800	15	1,197	29	21
シロメバル	1,900	900	1,500	4	4
マツカワ	1,700	690	1,195	2	2
スズキ	1,600	33	310	15	9
ババガレイ	1,300	ND	338	29	18
ヒラメ	1,200	6	189	36	23
コモンカスベ	1,000	170	403	33	33
マコガレイ	920	21	206	34	20
ムラソイ	830	830	830	1	1
ヌマガレイ	810	580	695	2	2
ケムシカジカ	670	25	248	7	5
クロソイ	620	410	513	4	4

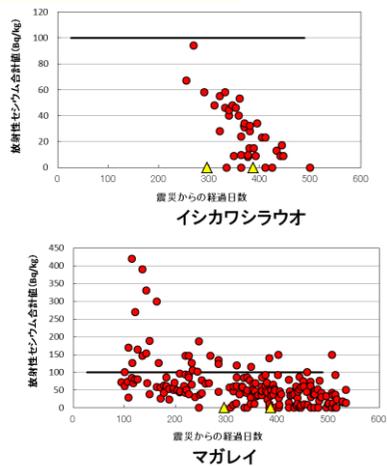


### 【事故から約1年半経過】

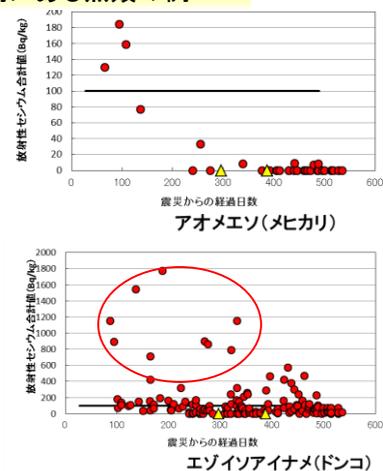
- 半減期の短い放射性セシウム134の減少  
(半減期約2年)
- 魚種によっては低下傾向、あるいは極めて高い数値は出なくなってきた。

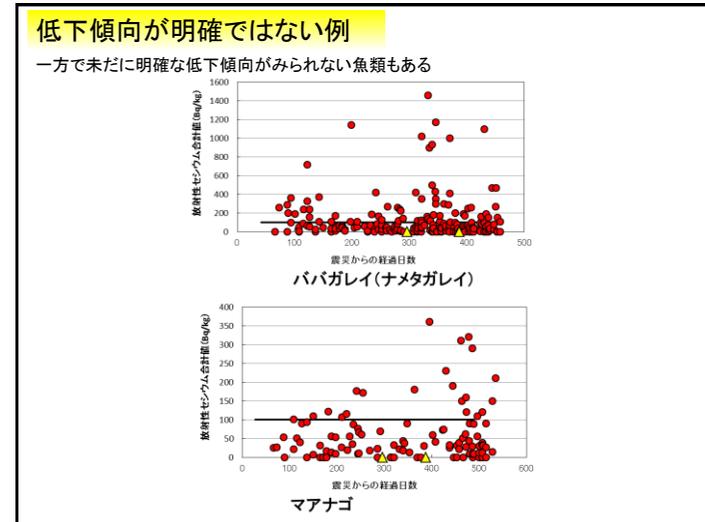
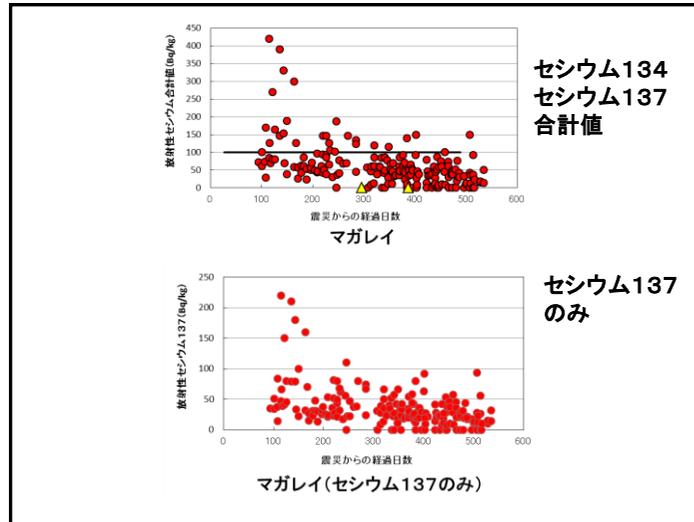


### 低下傾向にある魚類の例



### 低下傾向にある魚類の例





- まとめ**
- 20km圏内
    - 全体としては、広野沖やいわき北部沖に比べて極端に高い数値ではないが、アイナメのような事例もあるので、今後も注視していく必要がある。
  - 1年半を経過して、全体としては低下傾向にある。
    - ★セシウム134の半減期による低下
    - ★魚種によっては低下傾向、あるいは高い数値が出なくなってきた。
  - ただし、明確な低下傾向がみられない魚種もある